

2017年度 選択プログラム

午後のプログラムは選択制です。以下のプログラムから、第2希望までを選んでお申込みください。
なお、会場については、当日配布の資料でお確かめください。

1. 分科会講演「回復期リハビリ病棟での身体拘束廃止」

【講師】井口昭子（「多摩平の森の病院」総師長（東京））

介護施設では原則禁止とされた身体拘束ですが、医療現場ではまだ身体拘束廃止への意識が高まっていません。実際、急性期等では必要な場合もあるでしょうが、慢性期や回復期ではどこまで廃止することができるのでしょうか。回復期リハビリテーション病棟での抑制廃止を実現している現場から、その実情と実践について事例を通じて学んでいきます。

2. 分科会講演「高齢者虐待の実態とリスクマネジメント」

【講師】山本克司（修文大学 健康栄養学部 教授（愛知））

介護・福祉施設でスタッフを抱える以上、常に「虐待」のリスクは存在します。虐待はどういった経緯で起こってしまうのか。虐待を起こさせないためのスタッフ教育、そして管理者は虐待の空気をいかにして感じ取るか。万が一、虐待が発覚した時の対処の仕方を、管理者の目線で取り組みます。

3. 分科会講演「認知症高齢者への看護コミュニケーション」

【講師】山本由子（武蔵野大学通信教育部准教授、聖路加国際大学認知症認定看護師教育講師（東京都））

抑うつ、徘徊、介護拒否など、認知症の方にはさまざまな行動・心理症状がみられます。高齢者施設においては、必ず認知症の方々への看護を行う機会があります。看護職として、どのように関わることで、利用者さんが安全で穏やかに看護を受けていただけるのか。医療事故の発生リスクを最小限に抑え、適切な看護を行っていくために認知症の方のコミュニケーションの特徴を理解しながら、関わり方を考えていきます。

4. 分科会講演「高齢者サービスにおけるコミュニケーション ・ 接遇を振り返る ～スピーチロックに気づく～」

【講師】本多 勇（武蔵野大学通信教育部教授、介護老人保健施設太郎支援相談員（東京都））

近年、あらゆる分野で接遇が注目されています。高齢者ケアの領域も、間違いなく接遇が求められます。ただし、一般の接遇とは異なり、私たちの利用者は、介護・看護や支援を必要とされる方々です。利用者や家族の皆様が心を開いて介護サービスを気持ちよく受けてくださるために、私たち専門職は、どのように利用者・家族に接すればよいのでしょうか。受講者の皆さんと共に再確認し、接し方について実際に身につけていただくことはもちろん、現場に戻り、ほかのスタッフにそのエッセンスを伝えられるような接遇研修の場としたいと思います。あわせて、ケアの現場で課題にあがるスピーチロックにも注目したいと思います。

5. ワークショップ「自立支援と事故防止」

私たちの生活は、「自由」と「介入・干渉」が共存しています。介護・看護の対人支援の場面においては、「本人に任せる・見守る」か「手を出す」か、検討を要する場合があります。例えば、転倒リスクがありながらも歩行能力が高くなってきた方・意欲的になってきた方が、サポートなく自分で歩く機会・動く機会が増えれば、それは事故のリスクも高まることになります。

「自立支援」と「安全確保・事故防止」は、どちらも介護施設・事業所には大事なミッションですが、見方によっては二律背反状態になるかもしれません。それぞれの現場の経験を持ち寄りながら、自立支援と事故防止をどのように捉え、考え、介護し、ご利用者に向き合っているか、現場に携わる仲間と共有し、ディスカッションしていきます。

6. ワークショップ「抑制廃止を実現させるためのトップの役割

～チームのケア力・組織で取り組む1～

施設内のスタッフに身体拘束廃止や提供するケアの質に対する温度差があり、思うように抑制廃止が進まないということは往々にしてあります。どのようにしたら施設・事業所全体で、ケアの理念や施設・事業所の方針を共有し、質の高いケアを提供することができるのでしょうか。またそれを実現・維持するための、トップの役割とはどのようなものなのでしょうか。その実現のための方法論、施設運営・経営の戦略、組織論を含めてディスカッションしてみたいと思います。

施設トップ＝管理者（施設長、所長、サービス提供責任者、マネージャー）の皆さまにノウハウや経験、悩みを持ち寄っていただき、解決策を共に考える場として活用していただきます。

（※本ワークショップは、管理者の方々の参加を想定しています）

7. ワークショップ「不適切ケアの芽をチームで摘むには

～チームのケア力・組織で取り組む2～

ケアの質は高齢者施設の要（かなめ）です。ひとりの突出した技術を持つスタッフがいても、24時間365日勤務できるわけではありません。そうすると、ケアの質はその技術の横展開に掛ってきます。ケアの技術が不十分であったり、利用者への声かけや関わりが不適切なことが多かたりするスタッフがチームにいる場合は、そのスタッフの技術を向上・改善しなければなりません。

チームアプローチでケアを提供する施設・事業所において、「ケアプランの共有」、「技術の伝達」、「ケアの目的の共有」、「ケアへの意識の向上」、「リーダーシップ」、「委員会活動（抑制廃止委員会等）の活動と実践」など、ケアの質の向上につながる様々な実践のヒントがあります。チームケアのレベルアップのための手段を各自持ち寄って議論してみたいと思います。それぞれの施設で取られているアイデアやシステムを共有して、自施設の不適切ケアの芽を摘み、ケアの質のレベルアップへの一助となるようなワークショップを行います。

（※本ワークショップは、現場スタッフの方々の参加を想定しています）